



なぜ、会社を作るとお金持ちになりやすいのか？

お金持ちには会社経営者が圧倒的に多い。これは日本に限らず世界でも同様の傾向があります。会社設立には、人々がお金持ちになりやすい要素が隠されていると言えます。今回はなぜ会社設立が金持ちにつながるのか？について解説します。

会社を作らなければ貧乏のまま

「もし、マラソン大会であなただけ自転車に乗って勝負していい」

こう言われたらどう思いますか？

まず「勝てる」と思うでしょう。

逆に、自転車のレースで、「あなただけ自分の足で走って勝負しなければならない」と言われたらどう思いますか？

「そんなの勝てっこない！」と、はなから勝負を諦めるかもしれません。

実は、資本主義のゲームのルールは、これと似たようなものなのです。結論から申し上げますと、会社員は自転車レースに生身で参加するようなものなのです。

もし、あなたがお金持ちになりたい、もしくは貧乏で一生を終えたくないと考えているなら、迷わず会社を作ることをおススメします。

なぜでしょうか？理由は、圧倒的にお金持ちになるために有利だからです。

まずは、こちらをご覧ください。

『日本のお金持ち研究（橘木俊詔、森剛志著書／日経ビジネス人文庫）』によると、高額納税者に関する職業別分布は以下の通りだそうです。

1位	企業家	31.7%
2位	医師	15.4%
3位	経営幹部	11.6%
4位	芸能人	1.3%
5位	スポーツ選手	0.9%
6位	弁護士	0.4%
	その他	38.7%

これは2001年度版の高額納税者名簿を元に作成されたデータです。どうでしょう？会社を営んでいる企業家31.7%で圧倒的にお金持ちが多いことがわかります。

よくニュース等で、スポーツ選手や芸能人の高い年俵が取り上げられることがあります。なぜ取り上げられるのかというと、珍しいからです。めったにないことだからニュースになるのです。

逆を言えば、会社経営者がお金持ちになるのは、ごくごく当たり前のこととも言えますから、あまりニュースにはなりません。

なぜ、お金持ちに会社経営者が多いのか？

では、なぜ、お金持ちの中には会社経営者が多いのか？リスクを取ってるから？よく働くから？優秀な人が多いから？など、様々なことを考えるかもしれません。違います。

お金持ちに会社経営者が多い最も大きな理由を1つ挙げるとしたら、ズバリ、「税金面」です。会社経営者は、会社員に比べて税制的に圧倒的に有利なのです。

どのように有利か？それは、稼いだお金の中から払う税金の「出所」が異なる点です。ここではわかりやすいようにざっくり説明します。

たとえば、あなたが1000万円稼いだとしましょう。そこから、セミナー参加費用や教材などの研究開発費用や、お客さんとの打ち合わせによる食事

代などを年間200万円払うとします。一般的には、教材費などは、事業の研究に使う経費として考えられます。

そして、もし、あなたが会社経営者なら、そこから事業にかかる経費を差し引いた後で、税金を払うことになります。

$$1000\text{万円 (稼ぎ)} - 300\text{万円 (経費)} = 700\text{万円 (利益)}$$

この手元に残った800万円から税金を払うことになります。

仮に、ざっくりと税金を20%としますと、140万円が税金です（税率は年によって変わってしまうので、細かい計算は国税庁のサイトを見るか、税理士、公認会計士に確認してください。）。

$$700\text{万円} - 140\text{万円} = 560\text{万円 (手取り)}$$

【会社経営者】

- 1、稼ぐ
- 2、使う
- 3、税金を払う

会社員は税金をたくさん払っている事実

しかし、会社員などの場合はどうでしょうか？その場合は、まず税金を払ってから、経費を払うことになります。ここで先ほどと同じようにざっくりとした税率20%で計算してみましょう。すると、税金が200万円になります。そして、税金を払って、残りの800万円から、勉強代や交際費を払うことになります。

$$1000\text{万円 (稼ぎ)} - 200\text{万円 (税金)} = 800\text{万円 (手取り)}$$

$$800\text{万円} - 300\text{万円 (経費)} = 500\text{万円}$$

【会社員】

- 1、稼ぐ
- 2、税金を払う
- 3、使う

あら不思議。会社経営者か会社員の違いだけで、手元に残るお金が60万円も変わってしまいました。

わかりますか？同じ1000万円を稼いだとしても、まったく税金の払う額が変わってくるのです。手元に残るお金が違ってくるのです。

誤解を恐れずにわかりやすいようにざっくりとえば、3000万円の稼ぎなら、年間150万円ぐらい支払う税金の額に変化が出てきたりもするわけです。

これが10年なら、1500万円も手元に残るお金が変わってきます。

ですから、会社を作って会社経営をする場合は、会社員に比べて、手元にお金が残しやすいのです。

国税庁データ[平成25年4月1日現在法令等]

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/2260.htm>

695万円を超え 900万円以下 23%

900万円を超え 1,800万円以下 33%

会社設立で稼ぎが加速化する理由

さらに、この税金のメリットは、学習意欲にもつながってきます。なぜなら、セミナー代や教材費などが経費になりやすいことから、どんどん勉強する費用を惜しまないで使えるからです。

だから、会社経営者はどんどん賢くなっていきます。成長します。稼ぐ力が身に付いていきます。そして、さらに稼ぎます。またまたそのお金で勉強します。

稼ぐ⇒学ぶ⇒より稼ぐ⇒より学ぶ・・・

逆に、会社員の場合はどうか？給与から税金を支払った後のなけなしのお金？で、勉強代を払います。ですから、勉強代を惜しむようになってしまいます。これが結果として、数年経つと、大きな差につながってしまいます。

稼ぐ⇒税金を支払う⇒手元に残らない⇒あくせく稼ぐ・・・

その他、会社が有利な点は、損金を繰り延べできる点ですね。たとえば、会社を作った初年度が赤字500万円だったとしましょう。青色申告をすれば、この損金は7年間繰り延べできます。

ざっくりおおざっぱに言えば、翌年に500万円稼いでも法人所得税は0円になります（法人住民税はかかります）。これも、会社経営が有利な点の一つです。

では、なぜ、国は、会社経営者に対しては税金を有利にするのか？なんだか、会社員に不利じゃないか！と思われるかもしれません。それは、暗に「事業をどんどん起こしてほしい」と願っているからです。

でないと、経済は活性化しませんし、国は税金を取ることができません。税金が取れなければ、国は衰退してしまいます。ですから、どんどんチャレンジする起業家を応援したいんです。

それと、会社員には、文句を言わせないでさらりと税金を徴収するのが源泉徴収という仕組みです。源泉徴収は、国が税収をとりっぱぐれることを

防ぐための革命的な仕組みともいえます。一説によると、第二次世界大戦に向けて、戦費を賄うためにナチス・ドイツを参考にして作られた仕組みだそうです。その名残が今も続いているわけです。

ということで、あなたがこの日本でお金持ちになりたいなら、起業し、会社を作ることは理にかなっています。

会社を作るデメリット

じゃあ、会社を作るデメリットはないのか？というところがあります。それは、維持費が多少かかることです。もし、会社を作って利益がでなくとも、毎年、必ず法人住民税がかかります。社員数や資本金の額にもやりますが、金額はおよそ7万円です（東京23区、2104年）。これが何もしなくてもかかる費用です。

それと、年に1回決算申告書を作成して国に提出しなければなりません。素人に作れないことはないが、結構大変です。そこで、税理士や公認会計士にお願いすることになります。当然、報酬が発生します。安いところでは月1万円計算で年間12万円ですべてやってくれたりします。

このように、ざっくり計算しても、およそ20万円ぐらいはかかります。設立時にも30万円ぐらいはかかりますから、初年度は50万円ぐらいは何もしないでも出ていく計算になります。

ただ、わたしはそれでも会社を作るメリットはあると考えています。なぜなら、先ほどの節税分で十分まかなうことができるからです。

簡単に会社を作れるのか？

会社員が簡単に会社なんて作れるのか？という疑問も出てくるかもしれませんが。結論から言いますと、簡単です。会社定款などを作って、印鑑証明や会社印などを用意すれば、自分一人で数日で作れます。

一昔前と違って、資本金も1円でOKです。わたしが初めて会社を作った2003年時は、まだ株式会社は資本金1000万円、有限会社で300万円が必要でしたから、それに比べればはるかに作りやすい環境と言えます。もちろん、面倒な方は、行政書士などの専門家をお願いしてもいいでしょう。先ほど申し上げたように、今なら30万円もあればおつりがきます。たった30万円で、面倒な手続きは全部専門家がやってくれます。

つまり、あなたに必要なのは、お金とちょっとしたやる気だけです。

会社員ではお金持ちになれないか？

では、会社員等、雇用される側ではお金持ちになれないのか？というのと、必ずしもそうとは限りません。非雇用者側でもお金持ちになることはできます。

それは、圧倒的にもらえる報酬を高くすることです。たとえば、外資系金融のディーラーなんかはそうでしょう。年収1億円以上をもらう人も少なからずいます。

しかしながら、先ほども申し上げたように、会社員と会社経営者では支払う税金の額が変わってきます。会社員の方が多く支払う可能性があります。支払いをざっくりシミュレーションすると、会社員が年収1億円を稼いだ場合、最高税率50%が適用されるとしてほぼ半分が税金の支払いになります。

ところが、会社経営者の場合はどうか？1億円を稼いだとしても、個人の所得と、法人の所得のいずれかにするかを選択することができます。個人と法人では、税額が変わってきます。ですので、やり方によっては、得な税率を選択することができます。

これまたざっくりになってしまいますが、個人の最高税率は50%に対し、法人の場合は40%になります。これだけでも10%も変わってきます。正確には、ある一定額までは、個人の方がお得。それを超えると法人の方がお得になります。会社経営者にはその選択オプションがあります。

もちろん、この手の計算は、税理士や公認会計士の方とご相談の上、行ってください。毎年税率や税法が変わるためです。

ただ、ここで言いたいのは、会社員は会社経営者に比べて、圧倒的にオプションが少ないということです。そのせいで、高い税金を払うことになります。

この事を知ってか、会社員によっては、会社を設立してしまう人もいます。雇用契約では会社対会社の契約にしてしまうのです。そうすれば、税率のメリットも活かせます。

ちなみに、芸能人の明石屋さんま氏も実は会社を持っています。そして、吉本興業から明石屋さんま氏の経営する法人へ報酬が支払われる仕組みになっているようです。

資本主義で取り残されないために

先ほども申し上げましたが、会社経営者と会社員では、同じ稼ぎでも、手元に残るお金が変わってきます。それは、税法でそうなっているからです。政府は、仕事や雇用を生み出す会社経営者を優遇するのは当然です。なぜなら、企業がしっかり儲ければ、税収が増えるからです。企業を応援するのは当然なのです。

どんなゲームでもルールがあるように、資本主義社会にもルールが存在します。ルールを無視すれば、勝利するのは大変です。資本主義社会で勝つためのルールの1つは、会社を作って経営者になることです。今の日本は、それがとてもやりやすい環境と言えます。利用しない手はないでしょう。

冒頭で申し上げましたが、会社を作るということは、まさしく、人生のマラソン大会に自転車で参加するようなものなのです。

ぜひ、お金に振り回されない人生を手に入れるためにも会社作りにチャレンジしてほしいと思います。

※詳しい税法や税率等は、必ず税理士や公認会計士などの専門家にたずねるようにしてください。また国税庁のウェブサイトも確認することをおススメします。毎年のように変更があります。

作野裕樹（さくのひろき）

追伸：ウェブサイト <http://www.sakunohiroki.com> では、「お金と起業と幸せ」についてのリアルな情報を随時掲載しています。資本主義経済の呪縛から逃れ、好きなことに取り組む起業家が増え、お金持ちになり、幸せになり、社会に貢献する人がたくさん増えれば、世の中がきっとよくなると本気で考えています。そのために当サイトがお役に立てれば幸いです。